

世界の出生率の低下と不妊症

◆世界の出生率の低下が続く

2023年6月8日時点の世界各国当局の発表によると、各国の（合計特殊）出生率の低下が続いている。欧米ではコロナパンデミックによる社会の混乱が落ち着きを取り戻した21年に出生率の下げ止まりがみられたが、22年に再び減少に転じている。日本、韓国や中国では出生率の低下が一貫して継続している（表1）。人口で中国を上回り世界最多となったインドでも、出生率が人口維持に必要とされる2.06～7を下回っており、将来の人口減少が予測される。

表1 世界各国の出生者数と合計特殊出生率の推移

	出生者数(万人)				合計特殊出生率			
	2019	2020	2021	2022	2019	2020	2021	2022
日本	87	84	81	77	1.36	1.33	1.30	1.26
韓国	30	27	26	25	0.92	0.84	0.81	0.78
中国	1,465	1,200	1,062	956	1.5	1.3	1.16	1.08
インド	2,358	2,314	2,311	2,305	2.11	2.05	2.03	未発表
インドネシア	456	453	450	未発表	2.22	2.19	2.18	未発表
タイ	62	59	54	50	1.25	1.18	1.09	1.00
米国	375	361	366	366	1.71	1.64	1.66	1.65
フランス	71	70	70	69	1.83	1.83	1.80	1.76
ドイツ	78	77	80	74	1.54	1.53	1.58	未発表
英国	71	68	69	66	1.63	1.56	1.61	未発表
ブラジル	289	273	271	258	—	—	1.53	未発表

（各国政府当局発表資料を参考に ARC 作成）

22年に国連が発表した「世界人口推計」によると、世界の人口は2086年に104億人でピークに達し、その後減少すると予測されている。しかし、出生率の低下が加速しており、世界人口がピークに達する時期は早まる可能性が高い。

◆出生率の低下の原因は各国で異なる

出生率低下の原因は各国で多少異なる（表2）。日本や韓国、中国など出産が婚姻を前提としている国は、婚姻率の低下や晩婚化を主原因として挙げている。タイは、経済的な理由や女性の社会進出によるキャリア重視の姿勢を挙げている。一方、欧米は、将来への不安や若者の価値観の変化を挙げる声が多い。経済が不安定な国では、若年層の失業率の高さを、先進国では、教育費などの子育て負担

の増加が挙げられている。総じて各国は、出生率の低下を若者世代の子供を持つことに対する後ろ向きな姿勢の結果と捉え、出産・子育て支援などを実施しているが、出生率の低下に歯止めがかかっていないのが現状だ。

表2 世界各国政府が考える出生率低下の原因

	日本	韓国	中国	タイ	米国	英国	フランス
・婚姻率の低下や晩婚化	○	○	○	○			
・ライフスタイルや価値観の変化	○	○	○	○	○	○	○
・女性の社会進出とキャリア重視の姿勢	○	○	○	○			
・高い教育費などの子育て負担の増加	○	○	○		○	○	○
・インフレによる可処分所得の減少	○	○			○	○	○
・経済の不調や高い若年者失業率		○		○		○	○

(各国政府当局発表資料などを参考にARC作成)

◆世界的な不妊症の増加も出生率の低下の一因か

世界保健機構（WHO）が23年4月に発表したりポート「Infertility Prevalence Estimates, 1990-2021」によれば、世界の成人の17.5%が、生涯に不妊症を経験している。不妊症とは、普通の性生活を12ヵ月以上続けても妊娠しない状態を指す。日本や中国を含む西太平洋地域での比率が最も高く23.2%、中東・北アフリカ地域が最も低く10.7%であった。不妊症の比率に所得による差はなく、高所得国で17.8%、低中所得国で16.5%だった。不妊症の比率は増加傾向にある。

◆不妊症増加の原因は不明だが男性の精子減少が加速

不妊症の原因として、過度のストレス、アルコールやタバコ、太りすぎや痩せすぎが挙げられているが、世界的な増加の原因は不明である。不妊症の原因は女性原因が3割、男性原因が3割、両性原因が3割（残りは原因不明）となっており、女性側では加齢による卵子の質の低下が大きな原因とされている。一方、男性側では、精子濃度や精子総数の減少、精子の運動能の低下が挙げられている。

多国籍研究チームが22年11月に発表した調査結果によると、世界の男性の精子濃度は、1973年に比べて51%減少（1億12万/ml→4,910万/ml）した。地域差は少なく、減少率は加速している。自然受精や人工授精に必要な精子濃度（1,500万/ml）を上回っているが、このままいくと多くの男性が不妊症となる。

精子数の減少の原因は、ストレスや環境ホルモン、電磁波など諸説あるが、よく分かっていない。男性不妊症は人類滅亡の危機ともいえるので、手遅れにならないうちに原因解明と早急な対策が望まれる。

【毛利光伸】